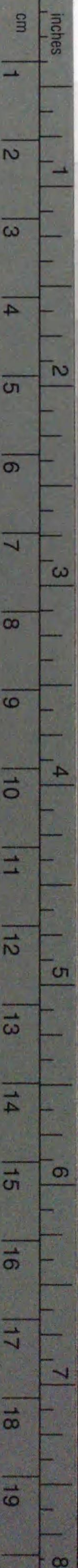


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

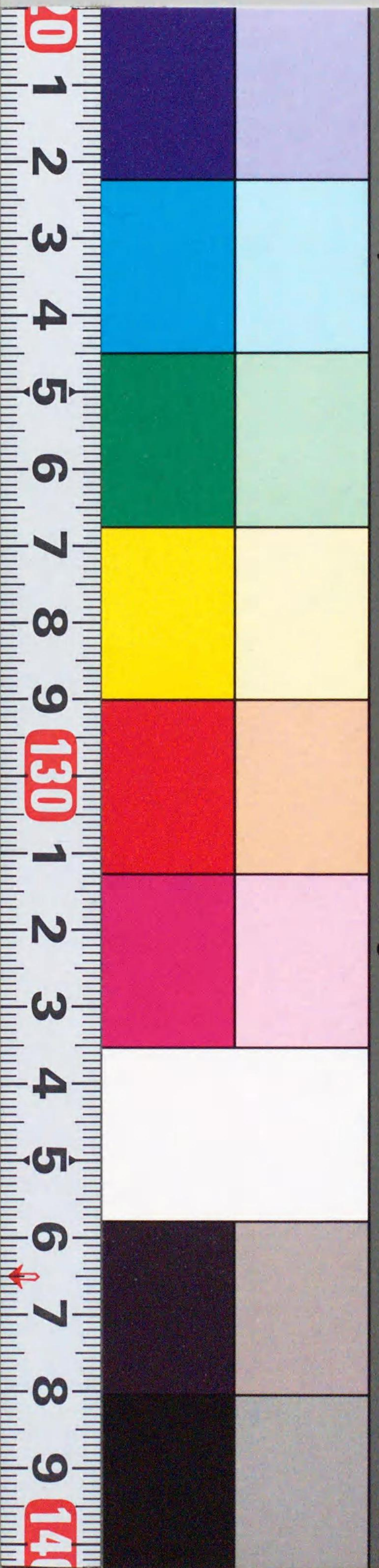
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



明治廿四年十月廿二日內務省許可

Y994

J7873

明治二十六年六月三十日



# 理財科講義

第二十八號

## 專修學校

東京日報發行







I種  
W



\*1200801155380\*

Y994  
J7873

録 目

經濟汎論(原論ノ部)	文學士	中隈敬藏
同 目 録	法學博士	金井延
社會問題	法學士	岡田朝太郎
刑 法(總則)	法學士	鈴木宗言
商 法(第一編第五章)	法學士	鈴木宗言
民法財産編第一部(物權)	法學士	兩角彦六
農業經濟	法學士	井上辰九郎
二十年来經濟世界之景況	法學博士	田尻稻次郎

テハ人ノ想像ヲ酌量スルニ及ハスト云フヲ得サルナリ何トナレハ有心界  
 (人間社會人事ノ事)ニ於テハ或事ノトカヲサヘルヘカラス又アルヘシト信  
 スルコトハ其事ノ實地ニ顯ハルコトヲ促スモノナレバ又アルヘシト信

經濟原論終

經濟原論



經濟汎論(原論ノ部)目錄

第一章 總論

第一款 貨物

第二款 經濟

第三款 貨物ヲ得ルノ方法

第四款 交易、分業及ヒ經濟的交通

第五款 國家經濟ノ成立

第六款 經濟學ノ定義

第七款 經濟學ノ部門

第二章 貨物生産ノコト

第一款 貨物ノ定義ヲ確定ス

經濟原論目錄

同	二	二	一	一	七	五	三	同	一
丁	四	二	八	二	八	八	丁	丁	丁
丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁	丁



第二款 貨物ハ有形物ニ限ルヤ否ヤ

三八丁

第三款 生産ノ定義ヲ論ス

四一丁

第四款 生産業ノ種別

四四丁

第五款 生産要物

四八丁

第六款 勞力

四九丁

第七款 生産的勞力及ヒ不生産的勞力

五三丁

第八款 天然物

五八丁

第九款 資本

六四丁

第一節 資本ハ生産要物中從タルモノ

同丁

ナリ

第二節 如何ナル貨物ト雖モ資本タル

六八丁

ヲ得ヘキヤ

四

第三節 國家資本ノ生存及ヒ増加

七四丁

第四節 國家資本ノ源ハ一私人中ノ資

八九丁

本中ニアリ

第五節 資本ノ種類

九三丁

第十款 生産ノ進歩

九九丁

第一節 生産ノ進歩トハ何ソヤ

同丁

第二節 財産ノ私有

一〇二丁

第三節 勞力ノ協同

一〇四丁

第四節 器具器械ノ利用

一一三丁

第五節 營業ノ自由

一一五丁

第六節 教育

一二七丁

第七節 契約ノ自由

一二〇丁



第十一款 ミル氏ノ生産的不生産的勞力

論

一二一丁

第三章 貨物分配ノコト

一五二丁

第一款 分配ノ大意

同 丁

第一款 小作料

一六一丁

第一節 小作料ノ起因及ヒ其額

一六五丁

第二節 礦區ノ地代

一七六丁

第三節 建物ノ地所ニ於ケル地代

一七七丁

第四節 地代ノ増減

一七九丁

第五節 土地ト地代トノ關係

一八四丁

第六節 地代ニ對スル攻撃

一八六丁

六

第七節 地代ニ關スル慣習

七

一九四丁

第八節 再小作料ノ額ヲ論ス

二〇〇丁

第三款 勞銀

二〇二丁

第一節 勞銀ノ定義

同 丁

第二節 勞銀ト自由競争トノ關係

二〇三丁

第三節 勞銀ノ種類

二〇五丁

第四節 勞銀ノ多少ニ付テノ意味

二一二丁

第四款 勞銀ノ原則

二一四丁

第一節 勞力ノ生産入費ト勞銀トノ關係

同 丁

第二節 勞銀ニ關スル諸大家ノ說

二二三丁

第三節 勞銀及ヒ自然ノ原理

二三六丁

經濟原論目錄

五



第四節 勞銀ト利益トノ關係

二六一丁

第五節 勞銀新説

二六八丁

第五款 利子

二九二丁

第一節 利子ノ定義

同 丁

第二節 職工同盟

三一三丁

經濟原論目錄終

業ニ使役スルコトヲ嚴禁セント又代議士ローレン氏ハ此嚴禁ナ一層擴張シテ  
 獨リ有夫ノ女工ノミニ止マラス更ニ未婚ノ女工ニモ及ホサンコトヲ主張セリ  
 然ルニ民主々義社會黨ハ前叙述シ來リタル諸建議ヨリモ尙ホ一層極端ノ建議  
 案ヲ提出シタリ今其要點ヲ摘擧センニ概テ左ノ如シ

甲 丁年以上ノ男工ノ労働時間チ一日十時間ニ限ルコト

乙 地下ノ業日夜間斷ナキ業務並ニ幼工ノ労働時間ハ一日八時間ニ限ル但  
 幼工ノ労働時間ノ外ハ特ニ之ヲ延長スルコトアルヘシ

丙 十四年以下ノモノヲ常備トシテ使役スルト日曜日祭祝日並ニ夜間ノ業  
 ニ就カシムルコトヲ嚴禁スルコト

丁 女工ヲ建築業ニ使役スルコトヲ禁スルコト

戊 産婦ノ保護チ一層擴張スルコト

己 總テ工場ニハ労働規則ヲ揭示スヘシ

庚 實物拂禁制ノ擴張殊ニ事業ニ必要ノ材料ヲ生産費以上ニ賣却スルヲ禁  
 スルコト



辛 各地方ニ労働事務局ヲ新設シ官ノ任命シタル労働顧問ヲ以テ之ニ長タラシメ之ヲ統フルニ帝國労働事務局ヲ以テシ以テ労働者保護律ノ執行ヲ監督セシメ尙ホ之ヲ補フニ企業家ト労働者ト雙方ノ利益ヲ代表スル労働會議院ヲ以テス而シテ其代表者ノ撰舉ハ直接無名投票ニ依リ一半ハ起業家之ヲ撰ミ他ノ一半ハ労働者之ヲ撰ム

壬 労働會議院ヲシテ總テ労働ニ從事スルモノ、賃銀最低額ヲ定メシムルコト

癸 企業家ト労働者トノ間ニ起リタル爭論ヲ勸解シ始審ノ裁判ヲナサシムル爲メ労働會議院ヲシテ調停裁判所ヲ組織セシム

此他労働者保護律ヲ國際法的ニ規定シ賃銀ニ關スル統計ヲ詳カニ取調フルコトノ建議ヲ提出シタリ

以上ノ建議ハ總テ同一ノ委員ニ附托シ討議セシムルコト、セリ是ニ於テ委員ハ第一日曜日ノ労働ニ關スル問題ニ付キ全ク之ヲ禁スルカ將タ已ムヲ得サル場合ニ制限ヲ設クルカヲ討議シ始メシメタリ此時議場ノ噪擾殊ニ甚シクビス

マルク氏モ非常ニ盡力シタリシカトモ未タ時機ノ熟セザリシ故ニヤ遂ニ議定ニ至ラスシテ止ミタリ次テ一千八百八十五年ヨリ六年ニ渉ル第六立法期第二會期ニ於テ民主々義社會黨ノ代議士アウエルローレン外數名ノ代議士ハ前既ニ一度提出シタル所ノ法律案ヲ少シモ變更セスシテ再ヒ提出シタリ又中央黨ノ代議士ドクトルリーベル氏及ヒ同志者モ亦一ノ法律案ヲ提出セリ而シテ其法律案ハ日曜日ノ労働ニ關シテハ前會期ニ於ケル委員ノ提出案ヲ採用シ一日ノ労働時間ヲ十一時間ニ限リ幼工並ニ女工ノ労働時間ニ向テハ一層嚴重ナル制限ヲ設ケタルモノナリ此等ノ法律案モ例ニ依リ總テ同一ノ委員ニ附托スルコト、セリ然ルニ委員ハ唯、帝國労働事務局設立ニ關スル社會黨ノ建議ヲ斥ケ新ニ二箇ノ決議ヲナシタルノミ他ニ何等ノ討議ヲモナサ、リシ而シテ其決議ノ第一ハ工場監察官増加ノ件第二ハ工業裁判所ノ設立ヲ脅迫ニスルノ件是ナリ此決議ハ本會議ニ於テ採用セラレ而シテ聯邦會議ニ廻送セラレタルトキ聯邦議會ハ工場監察官増加ノ件ニ付テハ不同意ヲ表シ工業裁判所設立ノ件ハ聯邦議會自身ニ議定スルコト能ハストシテ獨逸帝國大宰相ノ方寸ニ一任セリ



議會ニ於ケル労働問題ノ經過此ノ如クニシテ終ニ種々ノ建議ハ全ク無効トナレリ然レトモ獨日曜日ノ労働ニ關スル建議ノ結果ハ帝國ノ大宰相ヲシテ特ニ之ニ關スル法律上並ニ實際上ノ景況ヲ精密ニ取調フルノ已ムヲ得サルニ至ラシメ且其調査ノ結果ヲ議會ニ報告スルコト、ナレリ一千八百八十六年及ヒ七年ニ涉ル第六立法期第四會期ニ於ケル諸種ノ建議案ハ今此ニ之ヲ叙述スルノ必要ナシ何トナレハ此等ノ建議案未タ討議ニ附セラレサル前已ニ議會ハ解散セラレ同一ノ建議案次期ノ議會ニ提出セラレタレハナリ第七立法期第一會期ニ於テ代議士ローレン氏ハ婦女ノ夜業及ヒ日曜日ノ労働ニ關スル建議案ヲ提出シ又中央黨ノ代議士ヒッツェ氏ハ三箇ノ法律案ヲ提出シタリ其一ハ職工ニ關スル營業條例ノ規定ヲ元行力ヲ常ニ使用スル總テノ工場ニ適用スルモノナリ他ノ二ハ第六立法期第二會期ニ於テローベル氏ノ提出シタル法律案ト大同小異ナリ而シテ此等ノ法律案ハ皆同一ノ委員ニ附托サレ調査ノ手續ヲ履メリ委員ハ先ツ幼工女工ノ労働制限ヲ査定シ之カ法律案ヲ總會ニ提出シタリ然ルニ總會ハ第二讀會及ヒ第三讀會ヲ經テ該案ヲ採用シタリ之ト同時ニ工場以外ノ

幼者労働ノ制限ト所謂合制労働日ナルモノニ關スル調査ニ付キテ建議アリタリ(而シテ以上ノ諸建議案中ニ於ケル十三歳以下ノモノ、就業ヲ全ク禁スル件ハ漸ク昨年(千八百九十年)至リ總會議ニ於テ採用サレリ)次ノ會期ニ於テ代議士ドクトルリーベル及ヒヒッツェノ二氏ハ日曜日ニ於ケル労働ノ制限ニ關スル特別法案ヲ提出シタリ此法案ハ實際一千八百八十四年及ヒ五年ノ會期ニ撰ハレタル委員ノ決議ト格別ノ差異ナキモノナリシト雖モ更ニ之ヲ新ナル委員ニ附托シテ調査セシムルコト、セリ然ルニ新委員ハ非常ニ原案ヲ修正變更シテ之ヲ總會議ニ提出セシニ總會議ハ極些少ノ修正ヲナシタルノミニテ第二第三讀會ヲ經テ採用サレ遂ニ該法案ノ全體ハ確定トナレリ之ト同時ニ議會ハ該法案ノ效力未タ及ハサル所ノ日曜日祭祝日ヲ外面上ニ於テモ亦神聖ト看做サ、ルヲ得サル各聯邦規定ノ調査ニ關スル委員ノ決議ヲ採用セリ

以上述ヘタル法律案ノ重要ナル點ヲ摘舉スレハ大略左ノ如シ

一 總テノ鑛山、冶金、製鹽業、製造、建築、織物場等ニ在テハ日曜日並ニ祭祝日ニ労働者ヲ使役スルヲ得ス



一 商家ニ在テハ助手徒弟其他ノ労働者ヲ日曜日並ニ祭祝日ニ五時間以上使役スルヲ得ス

此ニ制限ハ左ノ場合ニ適用セサルモノトス

甲 本業又ハ附屬業ヲ規則正シク繼續スルニ必要ナル掃除其他ノ整理法ニ

關スル労働ニシテ隔日曜若クハ隔祭祝日ニ少クモ午前六時ヨリ午後六時

マテノ間休止スルヲ得ル場合

乙 非常ノ場合ニ通常ヨリモ多クノ労働ヲ要スルトキ例ヘハ天災地變ノテ

リタル場合

丙 旅店料理屋並ニ交通ニ關スル諸業

此等ノ例外アルノミナラス尙ホ聯邦議會ノ決議ニ依テハ該法律案ノ制限ヲ永ク停止スルコトヲ得ヘシ然レトモ此場合ニハ同種類ノ業務ニ従事スル總テノモノチシテ一樣ノ待遇ヲ受ケシメ成ル可ク隔日曜日祭祝日ニ休息セシメサル可カラス

以上叙述シタル法律案並ニ之ニ附帶シタル諸建議ハ一千八百八十八年十一月

十九日ノ聯邦議會ニ於テ否決セラレタリ而シテ其否決サレタル理由ハ一千八百八十九年一月二十三日及ヒ三十一日ノ會議ニ於ケル説明ニ依テ明カナリ其要ニ曰ク(一)聯邦議會ハ現今ノ實狀ヨリ考察スルニ帝國議會ノ企望スルカ如キ程度マテ幼者並ニ婦女ノ労働ニ法律上ノ制限ヲ設クルノ必要ヲ見ス(二)聯邦議會ノ意見ハ帝國議會ノ決議シタル如ク爲サムニハ決シテ其目的ヲ達スルコト能ハス而シテ労働者ニ對スル好意ハ却テ仇怨トナルノ結果ヲ生セン何トナレハ幼工女工ノ労働ハ單ニ事業ニ缺ク可カラサルノミナラス労働者自身一家ノ經濟上ニ必要ナリ特ニ幼者ノ如キハ工場ニ於ケル規定ノ非常ニ嚴格ナルカ爲メ遂ニ家内ノ業務ニ移リ却テ過度ノ労働ニ就カシメラル、ノ恐レアリ(三)聯邦議會ハ公益上ノ必要ヨリモ尙ホ一層労働ニ制限ヲ設ケ以テ労働者ヲシテ其生産力ヲ利用スルノ機會ヲ失ハシムルヲ欲セス(四)聯邦議會ハ日曜日ノ労働ニ關スル法律案ハ今日ニ於テ必要ナラスト信ス(五)聯邦議會ハ帝國議會ノ決議シタルカ如ク或場合ニ除外例ヲ設クル職務ヲ盡スコト能ハス何トナレハ工業各種ノ有様ハ彼此互ニ異ナルノミナラス同一ノ中ニ在テモ各地方ニ依リ非常



ニ差異アルモノナリ此差異ヲ叮嚀ニ斟酌セサル規定ハ全帝國ハ勿論地方ニ於ケル各種工業ノ生存ニ必要ナル條件ヲ傷害シ且多數ノ勞動者ヲシテ是マテ從事シタル職業ノ範圍内ニ於テ損害ヲ被ラシムルコト少カラサルヲ以テナリト是聯邦議會カ帝國議會ノ決議ニ同意ヲ表セサリシ所以ノ理由ナリ

一千八百八十八年及ヒ九年ニ渉ル帝國議會ノ會期ニ於テモ新ニ日曜日ノ勞動並ニ幼工婦女ノ勞動ニ關スル建議ヲ提出セラレタリト雖モ決議ニ至ラスシテ終レリ其故如何ト云フニ當時議會ノ注意ハ専ラ聯邦議會ノ提出シタル勞動者老衰薄弱ノ保險ニ關スル大法律案ニ在テ其他ヲ顧ミルニ遑ナカリシカ爲メナリ爾後勞動者保護律改正ニ關スル運動ハ頗ル盛ニシテ輿論囂囂タリ學者ハ之ヲ著書ニ論シ新聞ハ之ヲ論說ニ演說家ハ之ヲ口舌ニ喋々セリ其結果トシテ遂ニ昨年帝國議會ニ於テ可決シ聯邦會議モ亦之ニ同意シ而シテ皇帝ノ裁可ヲ經テ發布スルニ至レル新法律アリ此改正ノ法律ハ以前行ハレタル所ノ法律ニ比シテ其ノ日曜日祭祝日勞動ノ制限及健康生命危險幼工婦女就業時間等ノ件ニ關シ頗ル之カ保護ヲ厚クシタリ是一千八百七十八年以來勞動者ノ保護ニ關ス

ル全權ヲ有シタルトナ考フレハ之ヲ刑罰ノ萌芽ト謂ハスシテ何ソヤ假ニ此時期ヲ稱シテ放任復讐主義ノ時代ト云フヲ得ン然ルニ社會ノ強力ハ漸次發達シ遂ニ一私人ノ腕力ヲ制スルニ足ルノ時代ニ達スルトキハ放任復讐主義ノ弊ヲ除キ一方ニ於テハ加害ト復讐トノ權衡ヲ保タシメ他ノ一方ニ於テハ他人ヲ害スレハ己ヲモ害サル、ナ知リテ再ヒ他人ヲ害セサラシムル爲メニ一私人ノ復讐ヲナスニ際シ加フル害ハ受ケタル害ト同一ナラサル可カラサルノ規則ヲ生ス目ハ目、齒ハ齒ヲ以テ償フト云フ反座法ダウカン是ナリ(舊約全書利未記第二十四章第十九節、同出埃及記第二十一章第二十三節以下參照)之ヲ制限復讐時代ト名ツクルヲ得ン其後反座法モ亦社會ノ生存ヲ維持スルニ不適當トナルニ方リテヤ賠償主義ボシヤン發生ス賠償主義ハ讀ンテ字ノ如ク加害者ヨリ金錢ヲ支拂ヒ以テ刑罰ヲ脱カル、制度ニシテ固ヨリ被害者ノ怨ヲ晴ラスト云フ思想ニ基キタルカ故ニ初メハ被害者ニ贖金ヲ甘受スルト否トノ自由アリシト雖モ後ニハ必ス之ヲ諾セサルヲ得サルニ至リ加害者ハ同時ニ贖金ノ一部ヲ社會ノ公權ニ支拂フノ義務ヲ生セリ(加害者カ官ニ納ムル贖金ハ *Fredum* *bannum* ト謂ヒキ)一私人ニ對スル







發達シタル時代ニ日耳曼人種漸次威力ヲ振ヒ其盛大ヲ極ムルニ方リ羅馬帝國ハ漸ク末路ニ陥リ遂ニ羅馬特有ノ國家主義ハ日耳曼人固有ノ贖罪主義ノ爲メニ倒レ爰ニ太古ノ遺風ヲ再現スルニ至リシカ久カラズシテ贖罪主義ハ更ニ正義ト云フ絶對思想ノ勝ヲ占ムル所トナリ稍其勢ヲ殺カレタリト雖モ正義ノ觀念ハ再ヒ往古ノ宗教思想ヲ蘇生セシメ遂ニ宗教主義ト日耳曼主義トノ一大鬭爭ヲ開クニ至レリ

中世ノ刑事法史ハ宗教日耳曼ニ主義ノ争鬭記ナリ宗教主義ハ歐洲南方ニ起リ羅馬法王ニ密著シテ神權ヲ代表シ日耳曼主義ハ歐洲北方ニ起リ羅馬皇帝ニ密著シテ國家即チ人類權ヲ代表シ爰ニ刑事法ハ僧俗ノ争ノ爲メニ中原ノ鹿トナリヌ然レトモ歐洲全土ノ文華ハ此宗教日耳曼ニ主義ノ一大衝突ニ起因シ争鬭ノ暗黒時代ニ養成サレニ主義ノ協合一致ニ成熟シタルモノトス蓋シ宗教主義ハ一切ノ犯罪ヲ以テ神意ニ戻逆スル非行ト認メ刑罰ヲ以テ盡ク身ヲ清メ神意ヲ和クル手段ト看做スノ舊弊ヲ再出シタリト雖モ犯人ヲ主觀的ニ觀察シ其意思ト責任トノ關係ヲ推究シ後ニハ刑罰ヲ以テ犯人ヲ懲戒スルノ具トナス可キ

チ知ラシメ刑事法ノ前ニ人ハ平等ナラサル可カラサルヲ知ルニ至ラシメタルハ主トシテ其力ナリト謂ツヘシ之ニ反シテ日耳曼主義ハ犯罪事實ヲ客觀的ニ視察シ之ニ依リテ國家ヲ害スルノ如何ヲ論スルモノナリ  
中世干戈ノ戦争ハ十八世紀ノ思想ノ格闘ト一變シ哲學ノ勃興ト共ニ遂ニ刑罰權ノ基本ハ正義ト利益トノ二點ニアルト云フ現時ノ折衷主義ヲ産出シタリト雖モ百科物理学ノ進化ニ伴ハレ刑事法學ノ將來ハ再ヒ一大革命ニ遭遇シテ生物進化ノ原理ヲ基礎トスル自然法主義ニ一變スルノ期ナキヲ保セス

(註)ガロト氏佛國刑法學理的及ヒ實際的原論第一卷三十五節、フオースタン、エリ

一 氏佛國刑法論第三節、オルトラン氏刑法要論第一卷第五十五節參照

其二 日本刑事法沿革

(二十) 日本刑事法ノ沿革ハ法理ノ變遷ヲ標目トシテ三大時期ニ區別シ第一期ハ之ヲ日本固有ノ法理時代ト名ツケ太古ヨリ近江令ノ編纂ニ著手シタル迄ヲ論シ第二期ハ支那法理ノ折衷時代ト名ツケ近江令ノ編纂ニ著手シテヨリ明治六年改定律例ノ實施迄ヲ論シ第三期ハ歐羅巴法理ノ折衷時代ト名ツケ明治六



年ノ改定律例實施以後ヲ論セントス

(註)某國學者ハ日本刑事法ノ沿革ヲ八期ニ分チタリト雖モ其標準ハ社會上、政治上ノ變遷ニ在ルヲ以テ同一主義ノ刑事法ト雖モ其變遷アルニ因リ別ノ時期ニ論スルノ已ムヲ得サルモノアリ(皇典講究所講演第一卷木村氏ノ所論參酌)又某刑法學者ハ之ヲ四大時期ニ分タレシト雖モ我輩亦之ニ倣フヲ欲セス專ラ法學ヲ專巧サル、諸君ノ參考ニ供セント欲スレハナリ(刑法汎論緒論第二款第二章、刑法原論緒論第一編第三章、明法誌叢第十一號現行刑法原論所載日本刑法史評論參照)

(三十一)第一期 第一期即チ日本固有ノ法理時代ハ前ニ云ヘル如ク上古神代ヨリ近江令ノ編纂ニ著手シタル迄ヲ含蓄ス然ルニ上代ノ思想ハ支那印度ノ文物ヲ輸入スルニ從ヒ漸次其力ヲ減シ上宮太子ノ訓戒十七箇條ノ發表アル頃ニ至リ一變シタルヲ以テ更ニ第一期ヲ二段ニ分チ第一期第一段ニ於テ神代ヨリ推古ノ朝迄ノ間ヲ論シ第一期第二段ニ於テ推古ノ朝ヨリ近江令ノ編纂迄ヲ概言セントス

(三十二)第一期第一段 上代ノ事跡ハ口碑傳説ヲ基礎トシタル二三ノ記錄アルニ止マリ其他ハ總テ後人ノ想像説ヲ文書ニシタル者ニ過キサレハ固ヨリ明瞭ヲ缺クノ點尠カラス故ニ我輩ハ此第一期第一段ノ現象ヲ述フルニ付テハ(一)天津罪國津罪ノ區別(二)祓除ニ關スル思想(三)普通ノ刑罰ノ有無(四)史傳ニ存スル法制ノ大意ヲ概言シテ以テ參考ニ供セント欲ス

(二十三)(一)天津罪、國津罪ノ區別ハ大祓ノ詞ニ見ユル所ナリ曰ク「天津罪止波、アミツツミトハ畔放溝埋、アミツツミトハ樋放、アミツツミトハ頻、アミツツミトハ串刺、アミツツミトハ生剝、アミツツミトハ逆剝、アミツツミトハ尿、アミツツミトハ許々、アミツツミトハ太久乃罪乎……國津罪止波、クニツツミトハ生乃膚斷、ハミツツミトハ死乃膚斷、ハミツツミトハ白人、ハミツツミトハ胡久美、ハミツツミトハ己母犯留罪、ハミツツミトハ己子犯留罪、ハミツツミトハ母與子與犯罪、ハミツツミトハ子與母與犯罪、ハミツツミトハ畜生犯罪、ハミツツミトハ昆虫乃災、ハミツツミトハ高津神乃災、ハミツツミトハ高津鳥乃禍、ハミツツミトハ畜生、ハミツツミトハ什志、ハミツツミトハ蠱物爲罪、ハミツツミトハ許々、ハミツツミトハ太久乃罪……」ト此區別ハ延喜式ノ選者藤原忠平公カ假ニ設ケテ文ヲ綴ラレシ迄ニシテ神代ヨリ恰モ現今公益ニ關スル罪、身體財產ニ對スル罪ト別ル如ク區別シ來リシ事跡ナシ而シテ罪トシ曰ヘハ何レモ神意ニ反スル事實ナルハ罪名ヨリ推スモ疑フ可カラサルニ似タリ

(註)天津罪ヲ列舉セル中ノ畔放ハ畔放ナリ田ノ界ヲ斷リ水ヲ流出セシメテ之



ナ干スヲ謂フ、溝埋トハ水路ヲ閉塞シテ田ノ水利ヲ剝クヲ謂フ、樋放ハ水ノ不用ノ時水門ヲ開キテ水害ヲ蒙ラシムル義ナリ、頻蒔ハ一度種ヲ蒔キタル所へ更ニ播種シテ前後ノ種ノ發育ヲ害スルヲ謂フ(此説明ハ數多ノ書ニ見ユ即チ重播ノ義ヲ含ムハ疑ナキモ土地ノ瘦衰ヲ防ク爲メニ播種ヲ休ムヘキ慣習アルニ拘ハラス其頃故ニ種ヲ蒔クコトヲ意味スルニハ非サルカ農事ノ古俗ニ土地ヲ休ムルコト外國ノ例アリ法學協會雜誌第十卷第六號五百五十八頁ヲ參考セヨ)串刺ハ田中ニ串ヲ立テ、足ヲ損ハシムルヲ謂フ(一種ノ呪詛ナリト云フ說モアリ)生剝逆剝ハ生タル獸皮ヲ後部ヨリ剝取ルナリ、尿戸ハ尿放ノ義ニシテ齋殿ヲ汚ス一所爲ヲ指シ以上七罪ハ素盞鳴尊カ高天原ニ於テ姉神天照大御神ノ田ヲ害シ米廩ヲ汚シ並ニ之ヲ驚怖セシメシメ爲メニ犯シタルコトアリト古傳ニ載スルニ因リ延喜式ノ選者カ天津罪ト名ツケ人間カ犯シタル場合モ此中ノ者ナレハ天津罪ト言ヒタルナリ故ニ制限列擧ノ書方ニシテ稼穡ヲ害シ齋殿ヲ汚スノ所爲ヲ汎ク天罪ト謂フ如ク信セラレシ源光國公ノ判斷ハ誤レリ但シ制限列擧ノ書方ト見ルニハ終ニ許々太久(即チ等)ト云フ語ア

商業登記簿ノ制度ハ歐洲諸國中獨リ獨逸及ヒ西班牙ノ法律ニ於テ之ヲ見ルノミ而シテ此二國カ該制度ヲ設定シタル所以ハ商業上ノ信用ニ關シ世ニ公ニスルノ必要アル事項ヲ廣告シ以テ商人ノ地位ヲ明瞭ニシ商業ヲシテ活潑圓滑ナラシメンコトヲ期スルニ在リ例ヘハ彼我取引ヲナスニ當リ其對手ノ商號如何ヲ知リ或ハ其丁年者ナルヤ將タ未丁年者ナルヤ或ハ其既婚婦ナルヤ將タ未婚婦ナルヤヲ明知シ得ルカ如シ且登記ハ法律上當然ノ證據トナルヲ以テ後日ノ爭訟ヲ遏止スルノ利益アリ然リ而シテ若シ此等ノ事項ヲ知ルノ方法ニシテ宜シキヲ得サルトキハ徒ニ商業上ノ取引ヲ滯滞セシムルノ結果ヲ生スヘシ此蓋シ我國ニ於テモ登記ノ制度ヲ採用シタル所以ナランカ

### 第一節 登記ノ事項

商業登記簿ニ記載スヘキ事項ハ概テ六種アリ(商法第十八條)即チ左ノ如シ(一)商號(商法第二十五條及ヒ二十七條(二)後見人(商十(三)未成年者(商一(四)婚姻契約(商一四(五)代務契約(商四(一)(六)會社(商七八以下)是ナリ



(一) 商號 トハ商人カ營業上使用スル所ノ名義ニシテ即チ營業ノ標章トナリ且同時ニ營業上ノ信用ヲ顯示スルモノナリ此故ニ若シ一地方ニ於テ同一ノ商業ニ付同一ノ商號許多アルトキハ各取引者ノ誤信ヲ生シ延ヒテ商業上ノ信用ヲ害スルニ至ルヘシ是商號ハ必ス登記シテ其商人ニ專有スルノ權利ヲ得セシムル必要アル所以ナリ

(二) 後見人 ノコトハ前已ニ述ヘタル如ク獨立シテ商業ヲ營ムコトヲ得サルモノニ代テ商業ヲナスモノナリ而シテ此場合ニ其取引上ヨリ生スル責任ヲ負擔スル財産ハ後見人ノ財産ニ非スシテ被後見人タル未丁年者若クハ無能力者ナリ故ニ後見人タルモノハ其身分ヲ登記シテ之ヲ世人ニ公示シ以テ自己所有ノ財産ヲ以テ取引ノ責ニ充ツヘキモノニ非サルコトヲ廣告セサル可カラス  
(三) 未丁年者 ハ通常獨立シテ商業ヲ營ムコト能ハサルヲ原則トス然レトモ若シ商法第十一條ニ規定スル所ノ條件ヲ具備スルトキハ獨立シテ商業ヲナスヲ得ヘシ故ニ未丁年者ハ其能力ヲ世人ニ知ラシムル爲メ之ヲ登記スルノ必要アリトス

(四) 婚姻契約 夫婦間ノ財産ハ法律上共通ト看做スヲ以テ婚姻ハ必ス之ヲ登記シテ其財産ノ關係ヲ普ク世人ニ知ラシメサル可カラス是商人ノ信用上缺ク可カラサルコトナリ

(五) 代務人 ノコトハ後章ニ於テ詳述スヘシト雖モ今之ヲ約言スレハ商業上ノ代理人ナリ故ニ代務人ノナシタルコトニ付テハ其主人タルモノ責ニ任セサル可カラス是ヲ以テ代務ノ委任及其解任ノコトハ之ヲ登記シテ代務人ノ權限資格ヲ公衆ニ知ラシメサル可カラス此畢竟主人ノ負擔スヘキ責任ヲ明示スル所以ナリ

(六) 會社 ハ普通巨額ノ資本ヲ運轉シ極メテ重大ナル事業ヲ經營スルノミナラス其權限責任ニ付テモ種々ノ制限アリテ之ヲ通常ノ商人ト同一視スル能ハサルモノアリ故ニ會社ハ之ヲ登記シテ其權限責任ノ程度ヲ明示スルノ必要アリトス而シテ會社ハ合名會社、合資社會及ヒ株式會社ノ三種アリテ各其權限資格及ヒ成立ノ方法ヲ異ニセルヲ以テ三種共ニ各別ノ登記ヲナサ、ル可カラサルナリ



以上列舉シタル六種ノ事項ノ外尙ホ船舶ノ登記アリ此事ハ商法第八百二十五條以下ニ於テ規定セリ而シテ登記ハ船籍港ヲ管轄スル裁判所ニ於テ之ヲナスヘキモノニシテ一般登記ノ場合ト異ナルヲ以テ本條ニ規定セザリシナリ此他尙ホ特許商標意匠等ノ登記アリト雖モ此等ハ皆特別法ノ規定スヘキモノニシテ本法ノ特ニ規定スルヲ要セサルモノナリ

### 第二節 登記ノ場所

登記ノ場所ハ當事者ノ營業所々在地又ハ其住所タルヘキコトハ第十八條第一項未段ノ明示スル所タリ故ニ當事者營業所ナ有スルトキハ其營業所ノ管轄裁判所ニ登記ヲナシ又若シ營業所ナキトキハ其住所ノ管轄裁判所ニ於テ登記ヲナサ、ル可カラサルナリ

夫レ登記ノ要ハ其事柄ヲ普ク衆人ニ明知セシムルニ在リ然ルニ今此ニ未丁年者アリ商法第十一條ノ規定ニ準據シテ取引ヲナストキハ固ヨリ有效ナルヲ以テ若シ其未丁年者營業所ナ有セサルヲ以テ自己住所ノ管轄裁判所ニ登記ヲ經

タルトキハ他ノ地方ニ於テ一ノ商取引ヲナシ爲替手形ヲ振出スカ如キ一ノ商事ヲナスモ可ナリト謂ハサル可カラス苟モ此ノ如クシハ假令登記ヲ經タリトスルモ對手人ハ其未丁年者ナルヤ否ヤヲ知ルニ毫モ效力アラサレトモ尙ホ其商事ヲ爲シタルコトニ付テハ完全ノモノト謂ハサルヲ得サル可シ是豈ニ法規ノ一缺點ニ非スヤ前已ニ述ヘタル如ク商取引ヲ常業トスルモノ即チ商人ノミ登記ヲ受クヘキ制度ナランニハ敢テ不都合ナカルヘキモ一時ノ商取引ヲナスニ付テモ猶ホ登記ヲ受ケサル可カラサルノ制度ナルカ故ニ斯ル不都合ヲ生スルニ至リタルモノナリ若シ一時ノ商取引ヲナスニ付テモ尙ホ登記ヲ要スルモノトスルトキハ其現ニ商取引ヲナス土地ノ管轄裁判所ニ於テ登記ヲナサ、レハ登記ノ效力ハ之ナカルヘキヲ信ス

抑、登記ノ目的トスル所ハ主トシテ商事ヲナスニ當リ其對手ヲシテ登記ノ事項ヲ明知セシメントスルニ在リ故ニ若シ其營業所又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ更ニ其土地ヲ管轄スル裁判所ニ於テ登記ヲ受ケサル可カラサルナリ然レトモ其登記スヘキ事柄ニシテ當時已ニ消滅シタルトキ例ヘハ未丁年者ニシテ丁年



ニ達シタルカ如キトキハ更ニ登記ヲナスノ必要ナキモノトス是第十八條第二項ノ明文アル所以ナリ

### 第三節 登記公告ノ方法

前節ニ縷述シタルカ如ク登記ノ目的ハ其事柄ヲ普ク世人ニ知ラシムルニ在リ而シテ其之ヲ公示スルノ方法ハ第十九條ニ於テ之ヲ規定セリ云ク「登記ハ其度毎ニ裁判所ヨリ其地ニ於テ發行スル新聞紙ヲ以テ速ニ之ヲ公告スヘシ其新聞紙ハ豫メ一曆年ノ間之ヲ定メ置クヲ要ス若シ其地ニ發行ノ新聞紙ナキトキハ其廣告ノ方法ハ司法大臣ノ定ムル方法ニ依ル又各人ニ商業登記簿ノ縦覽ヲ許シ且手数料ヲ納ムルモノニハ認證シタル謄本ヲ請フコトヲ許ス(第十九條第一項)登記及ヒ廣告ヲ請フ毎ニ手数料ヲ納メシム(第十九條第二項)ト今此法文ニ依ルトキハ所謂公示ノ方法ニアリ即チ第一裁判所ヨリ公告スルコト第二登記簿ノ縦覽ヲ許スコト第三登記簿謄本ヲ與フルコト是ナリ

第一 裁判所ヨリ公告ヲナスニハ其土地ニ發行スル所ノ新聞紙ヲ以テスルヲ

正則トス而シテ其公告ヲ容易ニ發見セシメンニハ商人ハ勿論一般人民間ニ最モ廣ク購讀セラル、新聞ヲ撰ヒ少ナクモ一年間ハ其公告ヲナスヘキコトヲ定メテ繼續セシメサル可カラス而シテ其公告ハ之ヲ數回ナスヘキヤ又只一回ニテ可ナルヤト云フニ商法草案ニハ費用ヲ減省スル爲メ一回ト規定セシモ確定法文ニハ其度數ニ付テ毫モ制限ナキヲ以テ果シテ何回公告スヘキヤノ問題ハ裁判所ノ意見ニ放任シタルモノト斷定セサル可カラス又若シ新聞紙ノ發行ナキ土地ニ在テハ或ハ一定ノ揭示場ヲ設ケテ公告スヘキヤ又ハ他ノ方法ニ依リ之ヲナスヤハ一ニ司法大臣ノ指定スル所ニ從ハサル可カラサルナリ

第二 登記ノ縦覽ヲ請フモノアラハ何人ニモ之ヲ許サ、ル可カラス何トナレハ假令裁判所ヨリ新聞紙ニ公告スルモ或ハ其公告ヲ閱覽セサルモノアルヤモ測ル可カラサレハナリ然ルニ登記ノ要ハ素ト其登記ノ事項ヲ普ク世人ニ明知セシムルニ在レハ苟モ其目的ヲ達セントセハ須ク其之ヲ請フニ任セテ閱覽セシメサル可カラス是其已ニ公告ヲナシテ又更ニ閱覽ヲ許スノ規定アル所以ナリ但單ニ縦覽スルノミニテハ敢テ手数料ヲ要セサルモノトス



第三 謄本ハ其登記ヲ證據トシテ之ヲ他人ニ明知セシメントスル目的ヲ以テ請求スルモノナラン而シテ登記ノ謄本ヲ請求スルモノアルトキハ裁判所ハ必ス之ヲ附與スヘキモノニシテ其謄本ヲ作ルニハ多少手數ヲ要スルカ故ニ之カ謄本ヲ請求スルモノハ特ニ手數料ヲ納メサル可カラズ而シテ其額ハ勅令ヲ以テ定メ全國ヲ通シテ平等ナリトス

### 第四節 登記ノ手續

登記ノ手續ハ商法第二十條ニ於テ之ヲ明定セリ云ク「登記ヲ受ケントスルトキハ當事者ノ署名捺印シタル陳述書ヲ以テ自己又ハ委任狀ヲ有シタル代理人ヨリ届出ツルコトヲ要ス其登記ハ即日又ハ翌日中ニ之ヲ爲ス」ト蓋シ其登記ヲ請求スルニハ本人ノ署名捺印シタル書面ヲ以テ自身出願スルカ又ハ正當ノ代理人ヲ以テセサル可カラズトスル所以ノモノハ其事實ノ確實ナルヲ要スルト同時ニ該書面ヲ以テ後日ノ證據トナスニ外ナラサルナリ又本條ニ登記ハ之ヲ請求シタル日又ハ其翌日ニ於テ必ス之ヲ爲サ、ル可カラズト規定シタル所以ハ

必竟登記ノ效力ハ登記ヲ出願シタル日ニ生セスシテ實際登記シタル時ニ生スルモノナルヲ以テ其登記ノ遅延ハ直ニ當事者ノ利益ヲ害スヘケレハナリ故ニ若シ登記官吏其登記ヲナスコトヲ怠リタルトキハ損害賠償ノ責ニ任セサル可カラズ民法財産編第三百五十五條ニ云ク「登記官吏ハ前數條ニ掲ケタル登記記載抹消若クハ改正又ハ登記證書ニ於ケル脱漏又ハ過誤ニ付キ請願者又ハ利益關係人ニ對シテ其責ニ任ス」ト又債權擔保編第二百八十九條ニ云ク「登記官吏ノ民事上ノ責任ニ關スル財産編第三百五十五條ハ抵當ノ脱漏又ハ過誤ニ之ヲ適用ス」ト以上ノ法文ニ由テ推論スルトキハ登記官吏タルモノ其登記ヲナスコトヲ怠リタルトキハ到底損害賠償ノ責ヲ追ル、コト能ハサルヤ明白ナリ次ニ若シ裁判所ニ於テ登記スルコトヲ拒ミ又ハ其改正取消ヲナスコトヲ拒ミタルトキハ如何スヘキヤト云フニ當事者ハ之ニ對シテ即時抗告ヲナスノ救正方法アリ即チ商法第二十一條ニ云ク「若シ裁判所ニ於テ登記ヲ拒ミタルトキハ當事者ヨリ其命令ニ對シテ即時抗告ヲナスコトヲ得」ト同第二項ニ云ク「登記ノ變更又ハ取消ニ付テモ亦前項ニ同シ」ト而シテ裁判所カ登記ヲ拒ム場合ニアリ一ハ裁



判所其職權ヲ以テ拒ムモノ一ハ第三者ノ申立ニ因リ之ヲ拒ムモノ是ナリ而シテ裁判所カ其職權ヲ以テ登記ヲ拒ム場合トハ登記スヘキ事柄カ道德若クハ法律ニ背戻スルカ又ハ登記請求ノ手續ニ缺點アルトキノ如キヲ云ヒ第三者ノ申立ニ因リ登記ヲ拒ム場合トハ第三者ヨリ登記ノ請求アリタル商號ハ自己ノ商號ナリト申立タルカ若クハ未丁年者カ第十一條ニ依リ登記ヲ請求シタルトキ父母又ハ後見人ヨリ未タ承諾ヲ與ヘスト申立タルトキヲ云フ此場合ニ裁判所其申立ヲ正當ト認ムレハ登記ノ拒絕ヲナシ得ヘシ而シテ其登記ヲ拒絕シタルトキハ場合ノ如何ヲ問ハス當事者ハ即時抗告ヲナスコトヲ得又其變更取消等ニ付テモ登記ノ場合ト異ナルコトナキヲ以テ亦均シク其拒絕ニ對シ即時抗告ヲナスヲ得ヘシ又登記公告ノコトハ民事訴訟法第四百五十五條以下ニ規定セラルヲ以テ就テ參看スヘシ

### 第五節 登記ノ效力

登記ノ效力ニハ一般ノ效力ト特別ノ效力トノ二種アリ乃チ

(一) 一般ノ效力 一般ノ效力トハ登記シタル事柄ハ總テ法律上何人モ之ヲ知リ得タルモノト推測シ且裁判所ニ於テモ之ヲ認知シクリト看做スモノヲ云フ更ニ之ヲ詳言スレハ登記簿ニ登記シタル事柄ハ公認事實ト看做シ之ニ對シテハ何人モ否認スルヲ得サルノミナラス裁判所ニ於テモ亦當然之ヲ認知スルモノナリ故ニ登記シタル事柄ハ本人自ラ進ンテ證明スルノ義務ナシト雖モ其登記セサル事柄ハ敢テ公衆ノ認知シタルモノト推測セサルヲ以テ本人先ツ之ヲ證明セサル可カラス是一般ノ效力ヨリ生スル自然ノ結果ナリ今之ヲ例說センニ此ニ甲ナルモノアリ或夫婦ノ一方ニ對スル債權ニ據リ其夫婦ノ財產ヲ共通ナリトシ第十四條ノ規定ニ基キ財產全部ヲ差押ヘントスル場合ニ於テ若シ其財產ノ分離ニ關シ既ニ登記ヲ經タルモノナルトキハ被告タル夫婦ノ一方ハ故チラニ其分離財產ニ付テ證據ヲ舉クルノ必要ナシ然レトモ若シ其登記ヲ怠リテナサ、リシトキハ假令實際ニ於テ分離ノ約束アルモ法律上共通ト看做スヲ以テ從テ其財產全部ヲ負債償却ノ犠牲ニ供セサル可カラサルハ論ヲ俟タス然レトモ此規則ニハ例外アリ即チ自己ニ些少ノ過失ナクシテ其登記ノ事實ヲ知



ラサル人ニ對スル場合ナ云フ但此規則ヲ利用セント欲スル債權者ハ自己ニ於テ毫モ過失ナク然カモ其登記ノ事實ヲ知ラサル場合ヲ證明セサル可カラス而シテ其果シテ過失ナカリシヤ否ヲ判斷スルハ一ニ裁判官ノ職權内ニ在リトス例ヘハ登記ヲナシタル裁判所ニ於テ未タ公告セサル前若クハ其登記公告ヲ閱覽スルノ暇ナキ時期ニ於テ取引行為ヲナシタルカ如キハ過失ナキ場合ナリ夫レ此ノ如ク已ニ登記ヲ經タル事柄ハ所謂公認ノ事實ト看做スヲ以テ法律上各人皆之ヲ知得セサル可カラサルモノトセリ故ニ實際之ヲ知ラサルモノアルモ其知ラサルハ自己ノ過失怠慢ナルヲ以テ爲メニ損害ヲ生スルコトアルモ自ラ之ヲ負擔セサル可カラス是他ナシ其登記者ニ於テ已ニ充分ノ手續ヲ盡シシラ之ヲ負擔セサル可カラス且已ニ盡シタル手續ヨリ生スル所ノ權利ハ當然法律ノ保護ヲ享クヘキ道理ナレハナリ然レトモ若シ已ムヲ得サルノ事情ニ因テ其事柄ヲ知ラサルモノアリテ之ヲ證明スルトキハ法律ハ勿論之ヲ保護セテ登記ノ效力ヲ及ボサシメサルナリ何トナレハ其事柄ヲ知ラサリシハ全ク過失又ハ怠慢ニ因リタルニ非サレハナリ又未タ登記ノ手續ヲ經サル事柄ナルモ獨能ク第

三者ニ對抗シ得ヘキ場合アリ例ヘハ第三者ニ於テ既ニ登記以外ノ方法ニ依リ其事實ヲ認知シタルトキ即チ特別ノ通知ヲ受ケ若クハ自ラ直接ニ其事實ヲ見聞シタルトキ是ナリ蓋シ告知ノ方法ハ獨リ登記ノミニ限ルニ非スシテ苟モ實際其事柄ヲ知得シタル以上ハ方法ノ如何ヲ問ハス總テ登記ノ效力ト同一ニ論セサル可カラス從テ其之ヲ知得シタルモノニ對シテハ登記ノ前後ヲ問ハス登記一般ノ效力ヲ及ボスヘキハ當然ナリ

(二) 特別ノ效力 特別ノ效力トハ登記其モノニ因テ始メテ權利ヲ發生スヘキ特別ノ場合ヲ云フ即チ此場合ハ登記ヲ經テ始メテ權利ヲ發生スヘキモノナルカ故ニ其登記以前ニ在テハ假令第三者實際其事實ヲ知得スルモ敢テ後日ニシタル登記ノ效力ニ影響スルモノニ非サルナリ例ヘハ株式會社ノ如キ登記手續ヲ履行シタル後始メテ會社タル資格ヲ得ルモノナルヲ以テ其未タ登記ヲ經サル以前ハ勿論會社ニ屬スルノ權利ヲ有スルコトナク又商號ノ如キモ之ヲ登記セサル中ハ一地方又ハ一區域ニ於テ專有ノ權利ヲ得ル能ハサルナリ而シテ以上ノ場合ハ皆特別ノモノナルヲ以テ法律ハ各場合ニ於テ之ヲ明定セリ



## 第六章 商號

抑、商號トハ英語ノ Firm 若クハ Business name ナル文字ニ該當ス然レトモ英國ニ在テハ獨リ會社ニノミ商號ノ規定ヲ設ケルモ其他一般ノ商事ニ關シテハ毫モ法規ノ存スルナシ蓋シ會社ノミニ關シテ商號ノ規定ヲ設ケタルハ各國皆同一ニシテ又之ヲ一般ニ及ボシ總テノ商業ニ之ヲ用井サル可カラストナシタルハ獨リ獨逸國ニ於テ其例ヲ見ルノミ然リト雖モ商號ヲ保護スルハ猶商標ヲ保護スルト同事ニシテ敢テ其間ニ區別スヘキモノニ非ス何トナレハ商號ハ商人ノ目標トナリテ其名譽信用等ヲ甄別スル爲メニ使用スルモノニ外ナラサレハナリ故ニ商號ハ商人ノ信用標章ト云フモ敢テ過當ニ非サルナリ二者ノ性質果シテ此ノ如ク差異ナキモノトセハ何爲ソ一ハ之ヲ保護シ一ハ之ヲ保護セサルノ理アラシヤ已ニ商標ニシテ法律ノ規定ヲ要スヘキモノアリトセハ商號モ亦之カ規定ヲ要スルコト蓋シ正理上然ラサルヲ得サルナリ是我國ニ於テ獨逸ト均シク一般ノ商業ニ關シテ商號ノ規定ヲ設ケタル所以ナリ

### 第一節 商號トハ何ソヤ

古來我國ニ於テ使用シ來リタル商號ハ多ク商業ノ種類ヲ區別スルカ爲メニ幾ント同業者ニ通スル總稱ノ如キ狀況アリタリ例ヘハ吳服商ニ越後屋ノ名稱多ク質商ニ尾張屋又ハ佐野屋ノ名稱多ク其他雞肉屋ニ今金又ハ今文ノ名稱多クカ如ク顧フニ是我國ニ於テ古來大賈巨商ニハ暖簾ヲ與フト稱シ其雇人中多年誠實ニ勤績シタルモノニ相當ノ資本ヲ分與シ自家ト同一ノ業ヲ營マシメ又其屋號ヲ稱セシメタル慣例アリタルカ爲メ自然スル狀況ヲ馴致シタルモノナラシ然レトモ我新法典タル商法ニ所謂商號ハ彼カ如キ商業ノ種類ヲ區別スル爲メ用ユルモノニ非スシテ寧ロ各商人カ商業界ニ於テ自家ヲ表示スル爲メニ使用スルモノ即チ商業上各商人ヲ識別スル要具ヲ指スモノナリ故ニ商號ハ商取引ヲ常業トスルモノ、專有スル特權ニシテ一時商取引ヲナスモノ、用ユルコト能ハサル物タルハ論ヲ俟タサルナリ商法第二十三條ニ云ク「各商人ハ商號ヲ有シ總テ商業ニ於テ自己ヲ表示スル爲メ之ヲ用ユ若シ一人ニシテ資本ヲ分チ



數箇ノ營業ヲナストキハ其各營業ニ付キ各別ノ商號ヲ有スルコトヲ要スト本條ニ所謂一人ニシテ資本ヲ分チ數箇ノ營業ヲナストハ例ヘハ一萬圓ノ資金ヲ有スルモノ其内三千圓ヲ以テ料理屋ヲナシ他ノ三千圓ヲ以テ吳服屋其殘餘ヲ以テ牛肉店ヲ開始スルカ如キ其資本ヲ分離スルト同時ニ其計算ヲ分離シテ各營業ヲナスヲ云フ而シテ此ノ如ク各分離シテ營業ヲナストキハ各營業ニ付テ商號ヲ附セサル可カラス例ヘハ料理屋ニ八百善吳服屋ニ越後屋若クハ大丸又ハ牛肉店ニいろはナル名稱ヲ附スルカ如シ然レトモ本ト商號ナルモノハ各箇一業ヲ區別スル爲メ使用スルニ過サレハ或ハ同一ノ氏名ヲ以テスルモ可ナリ即チ三井物産會社三井吳服店三井兩替店ト云フカ如ク其氏名ヲ以テ各商業ノ名稱ヲ附スルハ敢テ法律ノ禁スル所ニ非サルナリ又數多ノ場所ニ於テ數種ノ營業ヲナスモ其資本ヲ分離セス又計算ヲ別ニセサルトキハ勿論其商號ヲ異ニスルノ必要ナシ而シテ何故ニ其資本ヲ分チ計算ヲ異ニシタル場合ハ各異ナリタル商號ヲ附セサル可カラサルヤト云フニ蓋シ其各商店ノ取引行爲ニ關スル義務ノ負擔ヲ明カニシ且破産ノ場合ニ生スル爭議

務ノ目的物カ代替物ニアラサレハ互ニ相殺スルコトヲ得ス  
第七分類 可分物 不可分物  
例ヘハ金錢又ハ米穀等ハ實際之ヲ分ツモ爲メニ其效用ヲ失ハス故ニ可分物ナリ不可分物ニハ有形上ノモノト無形上ノモノトアリ時計若クハ馬等ノ如キモノハ決シテ之ヲ分ツコト能ハス強テ之ヲ分ツトキハ其實用ヲナサス故ニ此等ハ其物ノ性質上ニ依テ有形的不可分ノモノトス  
前者ハ之ヲ公共物ト云ヒ後者ハ之ヲ無主物ト云フ  
公共物トハ何人モ之ヲ使用スルコトヲ得ルモ何人モ一人ニテ專有スルコト能ハサルモノヲ云ヒ無主物トハ山野ノ鳥獸又ハ遺棄物ノ如キ未タ現ニ何人ノ所有ニモ屬セスト雖モ一朝之ヲ占領セハ其人ノ所有ニ歸スルモノナリ  
所有ニ屬スルモノハ財産ノ目的ナルヲ以テ必ス之ヲ有スル主格ヲカルヘカラス而シテ其主格タルモノハ已ニ諸君ノ知ル如ク有形ノ人ノミナラス無形ノ人即チ法人モ亦主格タルコトヲ得法人ニ二種アリ公法人私法人ト云フ私法人ノ有スルモノハ總テ私有物ナルモ公法人ニ屬スルモノニ至リテハ更ニ公有物ト



私有物トノ二種アリ  
公法人ニ屬スルモノニ付テハ主トシテ公法ノ規定ニ因ルヘキモ民法ハ此點ニ付テ如何ナルモノカ公法人ノ公有物ニシテ如何ナルモノカ其私有物ナルヤチ示セリ

公法人ニ屬スル公有物  
公法人ニ屬スル公有物トハ公法人ノ財産中國用ニ供メタルモノヲ云フ國用ニ供スルトハ單ニ一般人民カ自由ニ且直接ニ之ヲ使用シ其利益ヲ享クルコトナク云ヒタルニアラス假令人民ハ直接ニ使用セサルモ人民一般ノ爲メニ使用セラレ、モノハ同シク國用ニ供スル公有物ナリトス今法律ノ指示スル所ニ就テ之ヲ言ハンニ

第一 國領ノ海及ヒ海濱

汎ク海ト云フトキハ領海及ヒ外洋ノ二種ニ別ツテ得ヘシ領海トハ陸地ニ接近シタル部分ニシテ外洋トハ其外面ニ出テタル部分ナリ外洋ハ萬國一般ニ使用シ得ヘキ所ニシテ即チ公共物ナリ何レノ國ト雖モ之ヲ占有スルコト能ハス之

ニ反シテ領海ニ至リテハ其沿海國ノ領分ニ屬シ其國主權ノ下ニアルモノトス此事タルヤ其國ノ防禦上又ハ利益上斯クアラサルヘカラスナルヲ以テナリ然レトモ領海ト外洋トハ如何ナル點ヲ以テ區別スルヤ今日國際上ノ原則トシテハ陸地ヨリ砲丸ノ達シ得ヘキ點ヲ以テ領海ト外洋トノ境界點トス其然ル所以ハ砲丸ノ達スル點マテ其國ノ領土トセサルトキハ防禦ノ道ヲ失フヲ以テナリ然レトモ武器進歩ノ著シキ今日ニ於テハ砲丸ノ遠距離ニ達スルニ隨ヒテ領海ノ範圍モ亦漸ク擴マリ行カサルヲ得ス故ニ漁獵等ニ關シテハ實際上ノ便宜ヨリ陸地チ距ル三海里ヲ以テ其國ノ領域ト看做スコトニ國際上一定セリ  
領海ヲ以テ其國ノ公有物トスルノ必要ヨリシテハ其國ノ海濱モ亦公有物トセサルヘカラス海濱トハ海ニ接シタル土地ニシテ一年中或ハ水面ニ突出シ或ハ水平ノ下ニ隠ル、部分ヲ云フ即チ立法者カ謂フ如ク春分秋分ノ最高潮ノ達スル點ヲ以テ限トス

第二 道路舟若クハ筏ノ通スヘキ川又ハ掘割及ヒ其床地  
道路ハ交通上最モ必要ナルモノナルヲ以テ決シテ之ヲ一己人ノ所有ニ歸スヘ



キニアラス必スヤ一般公共ノ使用ニ供セサルヘカラス河川ニ至リテモ亦同性質ノモノナリ或ル學者ハ河川ハ猶ホ流ル、道路ノ如シト云ヘリ然レトモ之ヲ公有物トスルハ一般ノ使用ニ供スルノ點ニ在ルカ故ニ河川掘割ハ舟筏ノ通シ得ヘキモノニ限リテ公有物トス尤モ舟筏ノ通スルトハ必スシモ水源ヨリ河口マテヲ云フニアラス一部分ニテモ舟筏ヲ通スルニ於テハ公有物タルコトヲ失ハスト雖モ舟筏ノ通シ得ヘキトハ流ニ順ヒ又ハ流ニ逆リテ往還スルコトヲ云ヘルモノニシテ決シテ此岸ヨリ彼岸ニ通スルコトニアラスト知ル可シ而シテ既ニ河川ニシテ公有物ナルトキハ其床地モ亦自ラ公有物タラサルヲ得ス是レ猶ホ領海ノ海濱ニ於ケルカ如シ床地トハ平時ニ於テ水量ノ最モ多キ場合ニ其水平ノ下ニ隠ル、部分ヲ云フ

第三 城砦壘壁其他陸海防禦ノ工作物

此等ノモノハ一國防禦ノ具ニシテ之ヲ公有物トナス所以ハ即チ間接ニ人民一般ノ爲メニ使用スルヲ以テナリ

第四 軍用ノ工廠船艦兵器機械其他ノ物品

此等ノモノモ亦前者ト同シク軍用上ノ點ヨリ國ノ公有物トナサルヘカラサル必要ナリ

第五 官廳ノ建物

官廳ハ一國ノ政務ヲ處辨スル所ニシテ政務ヲ處辨スルハ人民一般ノ爲メナルコト論ナシ

公法人ニ屬スル私有物

法人タル府縣郡市町村ハ一私人ト同シク一私人ノ名義ヲ以テ又一私人ト同様ノ手續ニ依リテ財産ヲ有スルコトアリ其財産ハ即チ公法人ノ私有物ニシテ一私人ト同シク民法上ノ規定ニ服從スヘキモノナリ  
此點ニ付爰ニ一言スヘキハ第二十三條第二項ノ規定ナリ本項ハ分ツテ二トス

第一 所有者ナキ不動産ハ當然國家ノ有ニ屬スルコト

國家ハ一定ノ領土及ヒ人民ヨリ成立スルモノニシテ不動産ハ實ニ一國領土ノ一部分ヲナスモノナルカ故ニ若シ特別ノ所有者ナキ場合ハ當然不動産ノ所有ハ國家ニ歸ス可キモノトス從ヒテ不動産ニハ無主物ナシ現在ノ所有者消滅ス



ルヤ同時ニ國家ハ其所有者トナル可シ之ニ反シテ動産ニ至リテハ已ニ陳述モ  
タル如ク所有主ナキモノ又ハ所有者カ放棄シタルモノハ無主物トナリ先占ノ  
取得方法ニ依リテ之ヲ取得スルコトヲ得

第二 相續人ナクシテ死亡シタルモノ、財産ハ當然國家ノ有ニ歸ス

歐米諸國又ハ我國ノ法律ニ於テモ相續上ノ法則トシテ下ノ如キ原則アリ即チ  
「國家ハ最終ノ相續人ナリ」下故ニ法律ニ規定シタル相續人アラサル以上ハ國家  
ハ其財産ヲ相續ス此點ニ付一言注意スヘキコトハ相續財産中ニハ動産アリ不  
動産アリ然ルニ相續ノ場合ニ於テハ動産ト雖モ同シク國家ノ所有ニ歸スルヲ  
以テ此場合ニ於テハ動産モ亦無主物タルコトナシ

公有私有ヲ區別スル實益如何ト云フニ公有物ハ即チ私有ニ係ハルコト能ハサ  
ルヲ以テ如何ナル方法ヲ以テスルモ一私人ハ之ヲ所有スルコト能ハス又從ヒ  
テ時効ニ依リテ取得ノ推定ヲ受クルコト能ハサルニ在リ

第八 分類 融通物 不融通物

融通物トハ私有財産ノ目的物トナリテ自由ニ處分スルコトヲ得ルモノヲ云ヒ

之ニ反シテ其然ラサルモノヲ不融通物ト云フ例ハ官職ノ如キ各人之ヲ有ス  
ルコトヲ得ルモ財産ト云フヘキモノニアラス何トナレハ各人ノ之ヲ處分スル  
コト能ハサルモノナレハナリ又猥褻ノ圖書ノ如キ各人ノ之ヲ有スルコトヲ得  
ルモ他ニ販賣スルコトヲ得ス即チ公共ノ理由ヨリ其處分ヲ禁止シタルモノナ  
リ又公有財産ノ如キモ不融通物ノ一ニシテ國ト雖モ自由ニ之ヲ處分スルコト  
ヲ得ス

此區別ノ實益タルヤ主トシテ合意ノ上ニ存ス合意ニハ必ス目的物アリ而シテ  
其目的物タル必ス融通物ナラサルヘカラス不融通物ヲ目的トシタル合意ハ全  
然不成立ノモノナリ

第九 分類 讓渡スコトヲ得ルモノ、得サル物

此區別ヲ以テ前者即チ融通物、不融通物ノ區別ト混同スヘカラス何トナレハ不  
融通物ハ元ヨリ讓渡スコトヲ得サルコトハ前ニ陳述シタルカ如シト雖モ融通  
物ハ必スシモ絶對的ニ讓渡スコトヲ得ルモノニ限ラス例ハ地役ノ如キハ各  
人之ヲ使用スルコトヲ得而シテ又之ヲ他ニ移轉スルコトヲ得ルモノナリ然レ



トモ之ヲ讓渡スニハ必ス要役地ト共ニ讓渡サ、ルヘカラス要役地ヲ離レテ地  
役權ノミヲ讓渡スコトヲ得サルモノナリ其他政府ノ與ヘタル鑛山採掘權ノ如  
キモ亦然リ其自體ハ融通物ナリト雖モ讓渡スコト能ハサルモノナリ

第十 分類 時効ニ罹ルコトヲ得ルモノ、得サル物

民法證據編ノ規定スルカ如ク時効トハ適法ノ條件ヲ具備セル事實ニ法律カ附  
與シタル推定ナリ即チ法律上一ノ推定ニシテ其條件中一定ノ年月ヲ經過スル  
コトカ時効ノ一大要素ナルヨリ之ヲ時効ト稱スルナリ彼公有ニ屬スル財產ハ  
假令幾年間一私人ノ有スルコトアルモ本來私有物トスルコト能ハサルモノナ  
ルヲ以テ時効ノ推定ヲ受クルコトヲ得サルモノナリ又財產編第二百六十七條  
ニ規定スルカ如ク不繼續ノ地役ノ如キハ本來時効ニ依リテ取得ノ推定ヲ受ク  
ルコトヲ得サルモノナリ

第十一 分類 差押ユルコトヲ得ルモノ、得サルモノ

法律上ノ原則トシテ凡ソ債務者ノ財產ハ債權者ノ共同擔保ナリ共同擔保トハ  
債務者ハ必ス自己ノ債務ヲ履行セサルヘカラサル義務アルカ故ニ若シ債務者

スルヲ以テ政府之ヲ行ヒ後者ハ人民之ヲ行フヲ常トス(運河掘削事業ノ如キ例  
ハ伊國ロンバード州ニ於テ航行スヘキ運河事業ハ政府ニ屬シ他ノ小掘削  
ハ民間ニ於テ之ヲ經營スルモノトシ又北獨逸ノ沼澤地ニ於テ充分ニ泥炭ヲ採  
取セントスルニハ必ス其中央ニ大掘削ヲ設置セサル可カラズ而シテ之ヲ行フ  
ニハ莫大ノ經費ヲ要スルヲ以テ農民及ヒ漁業者並商估等ヲシテ分擔セシムト  
云フ)其規模稍廣大ナルモノニ至テハ政府自ラ資金ヲ投シテ之ヲ經營スルコト  
通常ニシテ又灌溉排水ノ爲メ特ニ公債ヲ募ルカ如キコトモ敢テ稀ナルニ非サ  
ルナリ彼ノ英國政府カ嘗テ「ドレーゲン」即チ埋筒法ヲ擴張スル資金ニ充テンカ  
爲メ英倫土ニ向テ二百萬磅愛蘭土ニ向テ百萬磅ノ公債ヲ募集シ而シテ一千八  
百五十二年ニ至ルマテニ埋筒ノ爲メ政府ノ支出シタル金額ハ實ニ六百八十萬  
磅ニ及ヒタルカ如キ最モ著明ナル適例ナリ斯ル事例ハ皆政府ノ直接ニ行フタ  
ル干涉保護ニシテ屢之アルヘキモノニ非スト雖モ其間接ノ保護獎勵ニ至テハ  
屢行ハル、モノナリ何トナレハ大抵ノ事業ハ皆多少政府ノ間接保護ヲ仰カサ  
ルヲ得サレハナリ今灌溉排水等ノコトニ關シ其保護ノ重要ナル場合ヲ列叙セ



シニ概テ左ノ如シ

第一 用水權ニ關シテ政府ノ干涉ヲ要スルコト  
耕地ノ改良ナラスニ付キ水ヲ引用スルニ當リ先ツ第一ニ其水ノ所有權ノ何人ニ屬スルヤヲ確定セサル可カラズ即チ其私人ノ所有ニ係ルト政府ノ專領ニ屬スルトヲ區別セサル可カラズ而シテ若シ政府又ハ他人ノ所有ニ屬スルモノニシテ一私人ノ使用セント欲セハ固ヨリ多少政府ノ干涉保護ヲ須タサルヲ得ス例ヘハ流水ニ付テ之ヲ觀ルニ通常舟楫ヲ通スヘキ河川ノ使用權ハ政府ニ屬スルヲ以テ私人ハ猥リニ之ヲ使用スルヲ得ス必スヤ先ツ政府ノ許可ヲ得タル後始メテ之ヲ堰積シ或ハ他ニ之ヲ誘致スルヲ得ルモノナリ又沼澤ノ如キハ佛國ニ於テ一千七百九十二年以後町村ノ共有物トナリ英國ニ於テハ一千七百六十五年ノ開墾條例ニ依リ之ヲ國庫ニ屬セシメタルヲ以テ亦其水流ヲ使用センニハ官府ノ許可ヲ要セサルヲ得ス又私ノ河川及ヒ小流ニ關スル使用權ハ其土地ノ所有權ニ屬スルモノナリト雖モ何人ニテモ其使用ニ因テ水上若クハ水下ノモノニ障害ヲ被ラシムルカ如キ方法ヲ用ユ可カラサルナリ故ニ地主ニシテ

其水ヲ引用センニハ之ヲシテ自己ノ土地ヲ巡回シタル後再ヒ舊流ニ合セシムルコトヲ計ラサル可カラズ又此ノ如キ私ノ河川ニシテ若シ其兩岸ノ地所有者ヲ異ニスル場合ニ在テハ河水ノ中流ヲ界トシ而シテ兩岸ノ地主各其一半ヲ使用スル權ヲ有スルヲ通例トス

凡ソ政府ニ屬スル水及ヒ私有ノ河川ハ之ヲ公益ニ使用スルニ便ナラシムヘキモノニシテ一私人ノ如キハ一定ノ規則ニ依リ又ハ一定ノ税金ヲ出サシメ以テ其使用ヲ許スヘキモノナリ而シテ其税金ヲ定ムルノ方法ハ固ヨリ區々ニシテ每週使用ノ時間ニ從ヒ或ハ誘水管ノ直徑ニ從ヒ之ヲ定ムルモノアリ

第二 土地收用ニ關シテ政府ノ干涉ヲ要スルコト

總テ如何ナル場合ニ在テ稍大ナル灌漑及ヒ排水等ノ事業ハ土地ヲ收用スルコトヲ要シ從テ土地ノ公買處分ヲ行ハサルヲ得ス而シテ其公買處分ヲ行フニハ管ニ賠償金額ヲ支辨スルノミナラス尙ホ其土地ヲ變更スルトキハ公益大ニシテ更ニ從來ノ狀態ヨリハ收益ノ増加ヲ來シ得ルコト明瞭ナル場合ナラサル可カラズ此故ニ之ヲ各國ノ法律ニ徵スルモ實際其賠償金ハ單ニ實價ヲ辨償セシ



ムルノミニ非スシテ稍多額ニ規定スルヲ常トス例ハ一千四百五十五年ノベ  
 ニス國法律ニ於テ收用地ハ其實價ノ二倍ヲ賠償セシメ又一千八百零四年ノ佛  
 國法律及ヒ一千八百四十三年ノ普國法律ハ其四分ノ一又一千八百三十七年ノ  
 サリシニヤ國法律ハ其五分ノ一ノ増額ヲ賠償セシメタルカ如シ  
 土地ノ買收ニ關スル普魯西ノ制度ヲ按スルニ一千八百七十一年ニ發布シタル  
 法律ニ於テ總テ排水等ノ事業ヲ起スカ爲メ土地ノ買收處分ヲ行フヘキヤ否ノ  
 問題ハ政府之ヲ裁定シ又其買收權ノ有無及ヒ範圍ハ裁判所ニ於テ裁判シ又賠  
 償金ノ額及ヒ補助費ヲ支拂フノ義務ニ關スル爭議ハ之ヲ仲裁々判所ニ於テ處  
 理スルコト、セリ要スルニ買收處分ハ人民ノ權利義務ニ關シ一人ノ過誤ニ因  
 リ他人ノ權利ヲ侵害スルノ虞アルモノナルヲ以テ政府ハ深ク其事業ノ如何ヲ  
 查覈シ果シテ能ク其計畫ノ利益ヲ致スヘキコト明カナル場合ニ限り之カ公買  
 ナ許スヘキモノトス  
 土地ノ收用ハ總テノ事業ニ就テ必要ナリト雖モ就中排水若クハ灌溉ノ事業ヲ  
 起スニ當テハ或ハ他人ノ所有地ニ溝渠ヲ鑿チ堰堤ヲ築キ或ハ排水車ヲ設クル

ノ已ムヲ得サルコトアリ故ニ斯ル場合ニハ其土地ノ全部若クハ一部ヲ買取ス  
 ルカ或ハ地役ヲ定ムルコト必要ナリ而シテ其土地收用ノ爲メニ生シタル損害  
 ノ賠償額ハ之ヲ決定スルコト容易ニ非ス例之ハ或ハ湖水ヲ乾涸セシメタルカ  
 爲メニ沿岸ノ漁夫ノ被ムル損害額ノ如キハ之ヲ計算スルコト稍容易ナリト雖  
 モ之ニ異ナリ或航通スヘキ河川ノ水ヲ農業ノ爲メニ引用シ又ハ之ヲ鑛業水車  
 及ヒ其他ノ工業ニ使用スルカ如キ場合ニ在テハ其利害ノ關係極メテ錯雜ニシ  
 テ容易ニ計量シ難キカ如シ而シテ此ノ如キ場合ニハ當ニ當時ニ於ケル相互ノ  
 利害ヲ比較スルノミナラス尙ホ將來ノ得失ヲモ考慮セサル可カラズ即チ農業  
 上及ヒ工業上ニ於ケル水ニ對スル種々ノ需要ト河川ノ關係ハ深ク查察スヘキ  
 モノナリトスサレハ若シ河川ニシテ他ニ引水セラレタルカ爲メ其水量ヲ減シ  
 爲メニ大ナル船舶ヲシテ航行スルコト能ハサラシムルニ至ルトキハ假令農業  
 上ニ利益アルモ運輸業ノ爲メニ大ナル損害トナルモノナルカ故ニ佛國政府ノ  
 如キハ斯ノ如ク航行スヘキ河川ノ水ノ使用ヲ許可スルニ就テハ能ク此點ニ注  
 意シ假令一旦許可シタル後ト雖モ若シ其運輸業ノ利益ヲ害スルコトアルトキ



ハ何時ニテモ其許可ヲ取消シ得ヘキ法規ヲ設ケタリ又往昔河川ニ筏ヲ浮フル  
 コトヲ禁シタルカ如キモ畢竟之ト同一ナル利益ノ衝突ニ基キタルモノニシテ  
 即チ漁業ト水車トノ利益ヲ確保センカ爲メナリ又農家ニシテ製造場ノ使用ス  
 ル河水ヲ讓受クルトキハ農家ハ之ニ依リ利益ヲ得ルノ道理ナルヲ以テ普國ノ  
 法律ニハ用水權ヲ使用スル製造場等ニシテ其工事ノ改良整理ニ因リ用水ノ量  
 ナ節減シタルトキ此節減ヨリ生スル水ヲ利用セント欲スル農家ハ其製造場ニ  
 對シ少ナクモ工事整理ノ實費ヲ補償スヘキモノトセリ  
 前述スルカ如ク河水ハ農工共ニ之ヲ需要スルモノナルカ故ニ二者利害ノ關係  
 ナ考察シテ之カ引用ヲ許スヘキナリ而シテ通常ノ開明國ニ在テハ工業ハ農業  
 ニ比スレハ一層活潑ナル競争ヲナシ且蒸氣機關ノカヲ以テ容易ニ水力ヲ補足  
 シ得ヘキカ故ニ農業ハ水ヲ要スルコト一層急切ナリト雖モ未開國ニ在テハ全  
 ク之ト反對セリ又其國ノ氣候如何ニ因リ排水又ハ灌溉何レヲ先ニスヘキヤヲ  
 確定セサル可カラズ即チ西班牙國ノ如キニ在テハ灌溉ヲ先ニシ普國若クハ英  
 國ノ如キハ排水ヲ先ニスヘキナリ

第三 政府ノ獎勵ヲ要スルコト

凡ソ農民ノ計畫ニ因テ新ニ得タル土地ハ一定年間各種ノ租稅ヲ免除シ又其改  
 良シタル土地ニ付テハ少ナクモ租稅ノ増加チ一切免除スルトキハ政府ハ毫モ  
 直接ノ費用ヲ出サスシテ頗ル有效ニ此種ノ事業ヲ進捗セシムルモノナリ是ヲ  
 以テ英佛等ノ諸國ニ於テハ通常勸誘法ヲ設ケサルハナク現ニ佛國ニ於テハ新  
 ニ排水シタル土地ニハ二十五年間一ヘクタール毎ニ僅々十三「サンチム」ノ地  
 租ヲ拂ハシムルコト、シ又荷蘭ニテハ一千八百七年ノ法律ヲ以テ總テ新開墾  
 地ハ三十年間其地租及ヒ十分一稅ヲ免除スルコトヲ規定セシカ一千八百九年  
 更ニ五十年間之ヲ免除スルコト、セリ又「マホメット」宗ノ數多ノ諸國ニ在テハ天  
 然ニ灌溉ノ利アル土地ノ租稅ハ其收穫ノ十分一ナレトモ人工ヲ以テ灌溉ヲ行  
 フタル土地ノ租稅ハ僅ニ其十分一ナリ又英國ニ於テハ彼ノ埋筒ヲ施スニ  
 付キ借地人ヲ保護シ若シ借地人ニシテ地主ノ許可ナキモ自ラ進ミテ埋筒ヲ設  
 ケタルトキハ其借地期限ノ終ルニ際シ借地人ヲシテ地主ニ對シ相當ノ賠償ヲ  
 要求セシメ得ルカ如キ是皆農業ノ改良ヲ獎勵スル趣意ニ出テタルモノナリ



第四 地主組合ノ設立並ニ地主ト起業家ニ關シテ政府ノ干涉ヲ要スルコト  
 政府ハ以上述ヘタルカ如キ干涉及ヒ保護ヲ爲スノミナラス尙ホ地主ノ組合及  
 ヒ地主ト起業家就中資本會社及ヒ財產家トノ關係即チ利益分配ノ件ニ關シテ  
 多少ノ干涉ヲ施スヲ要ス今夫レ總テ利害ノ疑ハシク且重大ナル事業ニ至テハ  
 通常唯、數多ノ地主間ノ整然タル共働ノ力ニ因リ之ヲ實行シ且維持シ得ルモノ  
 ナルカ故ニ地主ノ組合ヲ組織スルコトハ尤モ必要ナリトス而シテ此種ノ組合  
 ハ固ヨリ自治ヲ有スヘキモノナリト雖モ亦多少官府ノ監督ヲ受クルヲ要スル  
 モノナリ例之ハ西班牙ニ於テ同一ノ運河ニ沿フタル町村ヲ連合シテ一ノ組合  
 トナシ各町村長ハ灌水事務員監視人及ヒ其他ノ下役ヲ任命スルノ制度アリ又  
 佛蘭西ニ於テ此ノ如キ組合ハ縣知事ノ嚴密ナル監督ノ下ニ在ルカ如キ是ナリ  
 然リ而シテ若シ地主ニシテ其資力充分ナラス自ラ此種ノ事業ヲ起スコト能ハ  
 サル場合ニ在テハ資本家ノ連合特ニ合資會社ノ如キハ大ニ之ヲ助成スルヲ以  
 テ便利アリトス而シテ斯ル場合ニハ其起業ノ爲メニ生シタル土地ノ増加ハ起  
 業家ト地主トノ間ニ合意ヲ以テ定メタル割合ニ依リ分配シ或ハ一定ノ收益金

ト一割ヲ増加スルトセン乎曩キノ紡績機械ニ投セシ億萬ノ資本ハ悉ク無效ニ  
 歸シ従前巧妙神ニ通スルト唱ヘラレタル巨大ノ機械ハ管ニ鐵塊ト變シ去リ其  
 價地鐵ニモ及ハス(地鐵ナレハ新機械ヲ造ルノ用ニ供スルモ古機械ハ殆ント供  
 用ノ道ナシ)然レトモ一タヒ新機械ノ使用セラル、ニ至テ尙ホ頑乎トシテ舊式  
 ノ機械ヲ用ユル時ハ忽チ競争ニ失敗シ復タ獨立スルコト能ハサルハ固ヨリ其  
 數ナリトス斯ノ如クニシテ資本ヲ失フハ實ニ巨大ナル疑フヘカラス而シテ  
 變遷ノ爲メニ職業ヲ失ヒタル勞力者ハ結局舊ニ倍スルノ利ヲ得ヘク好シ又一  
 時困難ニ陥ルモ全ク勞銀ヲ失フコトナク或ハ不利ノ間ニ於テ他業ニ轉スルヲ  
 得ヘクモ獨リ資本家ニ至テハ然ラス一度舊機ノ用ヲ失ヒタルモノハ其資本全  
 ク消滅ニ歸シ再ヒ復活スルノ道ナシ實ニ時勢ノ變遷ヨリ受クル所ノ損失ハ其  
 悲境勞力者ニ在ルヨリ寧ロ資本家ニ在ルハ敢テ疑フヘカラサルノ事實ト云フ  
 ヘシ

輓近物質上ノ進歩ヨリシテ大ニ需要品ノ高キ増加シ其價格ヲ減シタルハ既ニ  
 前數章ヲ以テ論スル如シ而シテ資本モ亦一物件トシテ近時大ニ其高キ増加シ



其價格ヲ落シタリ則チ同額ノ資本ニシテ其所有者ニ所得ヲ與フルノ歩合非常ノ減少ヲ示セリ然ルニ同額ノ資本ニシテ物品ヲ生産スルコトハ從前ヨリ多額ナルヲ以テ生産上資本勞力ノ所得分配ハ大ニ勞力者ノ方ニ利アルモノト云ハサルヲ得ス然レハ則チ此顯象ハ細民ノ爲メニ非常ノ利益タルヤ疑ナ容レス然レトモ資本家モ亦資本總額ノ増加セシヲ以テ其收入額全體ニ於テ敢テ減少セス却テ大ニ増加シ生計隨テ寛裕ナルヲ得ルナリ是ニ由テ之ヲ觀レハ輒近ノ進歩ハ資本ノ増加ニ由リ生産ヨリ得ル所ノ分配ハ資本ノ爲メニ減少シ勞力ノ爲メニハ増加ス然レトモ進歩ニ際スレハ分配スヘキ高ノ増加ニ由リ分配ノ總高ハ資本勞力雙方ノ爲メニ増加ス下ノ經濟上ノ原理ヲ實地ニ證明スルモノナリ又近年生産上勞力所得ノ歩合ハ之ヲ資本所得ノ歩合ニ比シテ高度ニ位シ資本家漸ク其收入ノ少キヲ喜ヒス百方考按テ運ラシ機械ノ新發明ヲ爲シ大ニ勞力需用ノ減少ヲ計ラントスト雖モ新發明ハ大ニ生産上ノ效驗ヲ増シ收益從ヒテ多ク新式機械ヲ使用スル資本家ノ使役スル勞力者ハ之ヲ昔日ノ同一事業ニ從事セシモノニ比スルニ多額ノ勞銀ヲ受クルヲ通例トス是亦勞銀ノ高キハ資本

家ノ不利ニ非スシテ生産上ノ效驗多キニ由ルトノ經濟上ノ原則ヲ實地ニ示スモノナリ今輒近ノ經歷ニ就キ一二ノ例證ヲ示サンニ西曆千八百七十年以來合衆國ニ於テ玻璃器製造ノ術大ニ進歩シ「コップ」「皿」「ランプ」等ノ代價七割乃至八割ノ減少ヲ示シ其品質モ頗ル改良セリ然ルニ之ト同時ニ玻璃器製造ニ從事スル勞力者ノ勞銀モ七割乃至一倍ノ増加ヲ示セリ佛國ノ大製造家ノ一人ナル「ポーリン」氏ノ說ニ據レハ當世記ニ於テハ勞銀ノ増加ハ機械ノ進歩ニ伴ヘリ即チ西曆千八百十六年ニハ佛國毛織物製造ニ從事スル勞力者ノ勞銀ハ一日「フラン」半ナリシニ八十二年ニハ五「フラン」ニ増加シ而シテ同時ニ「メリノ」織物「メートル」ヲ仕上ケルノ費用ハ實ニ十六「フラン」ヨリ一「フラン」四十五「サンチム」ニ減少セリ又セヂ「ユウ」氏會テ「職工傷痍」ニ付資本家ノ責務ト題スル論文ヲ著シ其中ニ云ヘルコトアリ

「ノッチン」ハムニ於テハ「レイ」ス製造ニ精妙ニシテ高價ナル機械ヲ採用シテ以來大ニ勞力ヲ省略セリ然ルニ之ト同時ニ勞銀ヲ増加セシコト一倍以上ニ達セリ余試ニ一製造家ニ就ヒテ新式ノ大機械ヲ運轉スルニ舊式ノ機械ニ慣レタ



ル普通ノ低キ勞銀ヲ得ル所ノ勞力者ヲ以テスルコトヲ得ルヤト問ヒタルニ  
 彼答テ曰ク用ヒテモ用ノ足ラサルコトハアラサルヘシ然レトモ新式機械ノ  
 爲メニ投入セラレタル資本ハ甚タ大ヒナルヲ以テ若シ醉狂其他ノ不行狀或  
 ハ不注意ヨリシテ機械ヲ毀損スルコトアレハ甚タ恐ルヘキノ結果ヲ來スヘ  
 シト實ニ往時單純ナル機械ヲ使用スルトキハ格別ニ職工ヲ精選スルヲ要セ  
 サリシニ今ヤ品行、智力、精巧ノ點ヨリ非常ノ精選ヲ要スルヲ以テ其勞銀ノ高  
 キハ固ヨリ當然ノコト、ナス

其他英國ニ於ケル製造事業上ノ景況ヲ見ルニ新式ノ精妙ナル機械ヲ用ユル所  
 ノ製造所ニ於ケル勞銀歩合ハ概テ舊式劣等ノ機械ヲ用ユル製造所ニ於ケルモ  
 ノヨリ一層高キヲ通例トス是需給ノ理ニ於テ然ラシムル所ニシテ固ヨリ然ラ  
 サルヲ得サルナリ

合衆國ニ於ケル鐵道事業モ亦此點ノ例證タリ今試ニイリノイス中央線ヲ以テ  
 之ヲ論センニ西曆千八百五十七年ニハ一英里ノ運轉總費用ハ二十六仙、五二ナ  
 リシニ八十六年ニハ減シテ十三仙、九三トナレリ此減少ハ素ヨリ種々ノ關係ヨ

リ生シタルモ主トシテ機關ノ改良ニ由ルモノトス而シテ同時ニ機關師及ヒ火  
 夫ノ給料ハ一英里ノ運轉ニ付四仙、五一ヨリ五仙、五二ニ増加セリ強力機關車ノ  
 利實ニ大ナリト云フヘシ(速カト重量トヲ増スニ由ル)

又合衆國紡績事業ヲ以テ之ヲ論スルモ西曆千八百三十一年ト八十年トヲ比較  
 スルニ職工一人ノ取扱ヒ得ル所ノ錘數ニ於テ殆ント三倍ノ増加ヲ示シ各錘ノ  
 生産高ハ二割五分ヲ増加シ一職工ノ生産力ハ凡ソ四倍ノ増加ヲ示セリ而シテ  
 綿布ノ代價ハ六割ヲ減シ勞銀ハ八割ノ増加ヲ示シ同時ニ各人綿布ノ消費高ハ  
 一倍以上ニ増加セリ

總テ機械ノ使用ハ大ニ勞力者ノ勞苦ヲ省キ大ニ其健康壽命ニ利アルハ決シテ  
 疑フヘカラス而シテ其勞働ハ機關的トナルノ傾キアリト雖モ亦大ニ精心的ノ  
 苦腦ヲ救フコトヲ得ヘシ殊ニ農業ノ如キハ機械、草苴機械、麥苴機械、結束機械  
 等ノ發明ノ爲メ勞力者ノ勞苦ヲ省キシコト幾クナルヲ知ラス實ニ機械ノ發明  
 ハ下等勞力者ノ勞働ヲ減シ彼等ノ勞苦ヲ減少スルコト淺少ニ非ス人生ニ幸福  
 ナ與ヘタル至大ノ功アルモノトス



又人口ト機械進歩ノ關係ヲ見ルニ新式機械ノ使用ハ一見勞力ノ需要ヲ減シ大ニ人口ノ増加ヲ妨クルカ如シト雖モ之ヲ軌近ノ實驗ニ徴スルニ却テ人口ノ増加ニ利アリ是生産力増加ノ爲メ生計寛裕ナルヲ得ルニ由ルモノナリ彼愛蘭ノ如キハ勞力ノ供給頗ル多ク大ニ製造事業ニ從事スルニ便ナルカ如キト雖モ西曆千八百八十八年合衆國領事ノ報告ニ據ルニ同國ノ毛布製造ハ新式有效ノ機械ヲ備フルモノ甚タ少ク多クハ依然トシテ手織機ヲ使用スルヲ以テ大ニ時勢ニ後レ非常ノ困難ニ陥レリ而シテ其手織機ニ使用セラル、勞力者ノ如キハ甚タ低度ナル勞銀ヲ得僅カニ露命ヲ繼クト云フ

然リト雖モ機械ノ進歩著キ國ニ於テハ勞力需要ノ減少ハ決シテ世人ノ妄信スルカ如ク大ナルモノニ非ス却テ之ヲ増加スルノ實アリ西曆千八百七十三年以來物價大ニ下落シ商況不振營業所得ノ歩合著シキ減少ヲ示セシニ拘ハラス生産物ノ高及ヒ貿易ノ高ハ大ニ増加シ勞力ノ需要ハ決シテ減少セス却テ此間ニ於テ若シ商況ナシテ活潑ナラシメハ一層勞力ノ需要大ナルヘシト云フヲ得ヘシ而シテ合衆國ニ於テハ未タ機械ノ使用進歩ノ原因ヨリシテ勞力市場ニ混

亂ヲ起セシノ實ナク勞力ノ繁榮蓋シ今日ノ如キ好況ナルハナシ然レトモ世人ハ漸ク之ヲ憂ヒ其結果遂ニ清國人其他外國勞力者ノ來住ヲ忌避シ事業見習ノ數ヲ増スナ好マス職工中勞力ノ配當ヲ制限セントスルノ類總テ勞力需要ノ減少ヲ恐ル、狀況ヲ呈シタリ然ルニ實際ノ形跡ハ全ク之ニ反シ生産分配方法ノ進歩ニ由リ物價減少シ品位ノ改良ニ由リ勞力ノ報酬大ニ増加シ勞力者ノ數隨テ亦増加セリ全ブラド、ストリート雜誌編輯者ノ年報ニ據リ之ヲ見ルニ西曆千八百八十七年三月ニハ現ニ製造所ニ使用セラル、職工ノ數ハ之ヲ八十五年ニ比シテ四十萬ヲ増加セリ而シテ西曆千八百八十年ノ國勢一斑ニ據ルニ同年合衆國中主要ナル三十三都府ノ現役職工ノ數ハ九十九萬二千人ナリシニ八十五年一月ニハ百十四萬六千人八十七年三月ニハ百四十五萬人ニ増加セリ而シテ勞銀ハ西曆千八百八十二年乃至八十四年間ト八十五年乃至八十七年間ヲ比スルニ毛布製造ニ於テ一割乃至一割五分綿布、絹布、製造及ヒ製鐵事業ニ於テ一割五分、牛肉、豕肉業ニ從事スル勞力者ノ四分ノ三ニ於テ一割二分、無煙石炭採掘其他ノ鑛山事業ニ於テ平均二割ノ増加ヲ示セリ履製造ニ於テハ每百箱ヲ以テ之



ヲ論スレハ其生産ハ勿論勞力ノ需要一割五分乃至二割ヲ減少スト雖モ製造高増加ノ爲メ現役職工ノ數ハ大ニ増加シ而シテ老練ナル勞力者ノ勞銀ハ多少ノ増加ヲ示セリ實ニ世論ノ實際ト背馳スルコト往々此ノ如キモノアリ是其視線一隅ニ止マリ全局ニ通セサルニ坐スルモノナリ豈ニ慎マサルヲ得ンヤ

合衆國ニ於テハ輒近農業上機械ノ進歩實ニ非常ナル度ニ達セシニ拘ハラズ勞力ノ供給ニ過剩アルコトナク農業ノ進歩ニ伴ヒ勞力ノ種類ハ漸次ニ増加シ勞力ノ需要ハ年ニ多キヲ加フルノ勢アリ然リト雖モ歐洲大陸諸國ニ於テハ生産分配方法ノ變化ニ由リ農業勞力者ハ漸ク困難ナル地位ニ陥リ各種ノ手藝者モ亦大ニ困難ヲ極メ到底從來ノ地位ヲ保ツコト能ハサルヘシ

英國ニ於テモ勞力ノ供給漸ク多キニ過クルノ勢アリ然レトモ英國ノ工業海陸運送事業鐵及ヒ石炭ノ生産高及ヒ主要ナル食品ノ消費高ハ假令常ニ西曆千八百六十五年乃至七十五年ノ如ク著シキ増加ヲ示サスト雖モ之ヲ人口ノ増加ニ比シテ概テ増加ヲ示セリ則チ西曆千八百七十五年ヨリ八十五年マデノ人口増加ハ凡ソ一割ニシテ石炭産出高ハ二割地鐵ハ一割六分汽車物品運賃ハ一人ニ

二十年來經濟世界之景況正誤

丁	行	誤	正
三〇九	六	ヒイント、ウロンセント	ヒイント、ウロンセント
三一八	三	ボリチシヤ	ボリチシヤ
三二〇	三	借格	價格
三四二	一〇	亡ル	忘ル
三五三	八	輸出	輸入
三五六	六	汲々ノ下タルノ二字	脱ス
三七六	一〇	先ヒ	失ヒ
三七八	二	生産資	生産費
三七九	六	南岸	南洋
三八四	六	輸出	輸出
三八七	二	如キト雖モ其實際	如シト雖モ實際
三八八	七	人々	人口



# 賣捌所

東京橋區尾張町

東海堂

同神田區錦町

武藏屋

同神田區一ッ橋通リ

有斐閣

麻布區永坂町五拾壹番地

旭堂

同神田區表神保町

東京堂

明治廿六年六月廿九日印刷

明治廿六年六月三十日發行

定價拾錢

東京市神田區西小川町一丁目八番地

發行兼印刷者 高橋捨六

東京市小石川區下富阪町十七番地

編輯者 濱田健次郎

東京市神田區今川小路二丁目八番地

發行所 特別認可 私立專修學校